

M&I

出産のお金 どう準備？

結婚2年目で、そろそろ子供を考えています。出産は何かとお金がかかるそうですが、どう準備したらいいですか。(大阪府、女性、32歳)

「出産にはお金がかかる」と心配する人が多いようです。普通分娩で産むと、病院などの窓口負担が全額負担と、一般的な通院の3割でないことが理由の一つでしょう。でも、出産でもらえる公的なお金が色々あります。

出産後は公的医療保険から「出産育児一時金」が出ます。加入している保険の種類によって違いますが、原則42万円。組合健保では上乗せ給付がある場合も多いようです。自治体の上乗せもあり、例えば東京都港区では出産育児一時金

家計プロが答えます



ファイナンシャルプランナー 島中 雅子氏

を含めて60万円までの出産費用が助成されます。2010年の厚生労働省の調べによると、出産の平均費用は約47万4000円。出産育児一時金で多くを賄えます。

出産育児一時金は、自分で出産費用を立て替えて事後申請するほか、病院に直接支払ってもらうこともできます。病院に受け取ってもらう「受け取り代理」も可能です。ただ、病院によってできない方法もあるので、聞いてみま

普通分娩でも公的支援

普通分娩を保障する主な少額短期保険

	フローラル共済 「なでしこくらぶ」	まごころ少額短期保険 [医療保険金付定期保険]
入院保障	20～39歳女性は入院理由を問わず日額1万円(年間30日まで)	普通分娩での入院は日額1万円(普通分娩は最長7日まで)
死亡保障	死亡保険金150万円	死亡保険金300万円
保険料月額	全年齢一律で2500円	30～34歳女性は2452円

よう。クレジットカードのポイントをとりたい人は、いったん自分で払う事後申請がいいでしょう。

出産費用が安い地域なら、出産育児一時金とかがった費用の差額を現金でもらえます。病院への直接支払いを選ぶと、差額を受け取るには健保に請求が必要なので、忘れ

ないようにはしましょう。

このほか会社員で出産後も仕事を続ける人は、休んだ日数に応じて全国健康保険協会(協会けんぽ)と組合健保から「出産手当金」が出るのが普通です。

出産までの健診費用は自治体が助成制度を設けており、14回分の助成が一般的のようです。助成額は自治体によって違います。

まだ費用面で心配な人には、使い勝手がいい保険も登場しました。一般的な民間医療保険は普通分娩について保障しないケースが多いのですが、普通分娩の入院でも給付金が出る少額短期保険があります。病気の入院でも給付金が支払われ、毎月の保険料もそれほど高くありません。

ただし、どちらも妊娠前に加入しないと普通分娩を保障しません。子供が欲しくなったら早めに調べましょう。